

令和元年度第1回高知縣市町村図書館等振興協議会 議事録

日時：令和元年7月19日（金）

10:00～12:00

場所：高知県立塩見記念青少年プラザ 3階会議室

【出席者】

（委員）加藤 勉（委員長）、久寿 久美子（副委員長）、田中 勝之、清原 泰治、吉富 慎作
村井 由岐子、久松 隆雄

（事務局）生涯学習課（課長 三觜 美香、課長補佐 田中健、チーフ 上村 剛史、主事 山下 祐貴）
県立図書館（館長 渡辺 憲弘、専門企画員 山重 壮一）

○委員長

ここからは委員の方々の質問ご意見等をお伺いすることにいたします。皆様の全体的なお考え等を伺いたいとともに、僭越ではございますが、委員からお願いしたいと思います。

○委員

北川村では、数年前までかなりのお金を投入して図書室の整備を進めてきましたが、ここ最近では少なくなっています。一方、北川村では保育、小学校、中学校が一つずつありますので、そちらの教育機関には、要求通り、図書の充実については予算を整備しております。最近、村内でもいろいろな施設が新しくできると必ず、交流スペースが設置されますが、すべてに同じような整備はなかなか難しいので、行政としてどういう方向性でいくかというビジョンづくりはしっかり見積もりをしないといけないなと思いますし、小さいところだと莫大な予算は取れませんのでどうしても学校を中心とした取組。やはり、重点的な部分を一定、実行しなければならないと思います。

○委員長

現在の活動で特にご苦勞されている点があるかと思いますが、何かご意見がいただければと。

○委員

北川村のことでいいますと 現在担当しているのは臨時職員です。しかも、月に15日という勤務日数の制限をかけられていまして、なおかつその方は村民会館という公民館のようなところにいるのですが、そういったところの清掃と事務補助等を行いながらということなのでなかなか図書の方に全力投球できる状態にないというのが現状のところなんです。ですので、ニーズの掘り起こしももちろん必要ですし、体制ができていないがために何ができるかということを考えていくという状況です。

○委員長

事務局からコメントありましたら、細かく状況をお伺いしたい。

○事務局

市町村におきましては、なかなか人員を配置することにおいては難しいということで、小さい図書館では特に臨時職員の方が担当しておられるところをいくつか拝見をいたしました。ですので、レファレンスサービス等はなかなか難しいところはあるとは思いますが、その中でも、図書館のお便りを頑張っておつくっておられるところもお見受けはしました。

○委員長

細かいところですが北川村の資料費が2万4千円ですが、やっぱりそれぐらいしか割けないのが現状というところでしょうか。

○委員

職員の方の時間を計画する段階に割けないというところがあるので、数年前は何十万単位でずっと膠着していたのですが、ここ最近はそのような状態になっています。ただ、村でいろいろな施策の優先順位が高くないということは実際にあると思います。

○委員長

わかりました。ありがとうございます。委員もいろいろとご活動なさってますので、そのあたりに関連がございましたらお願いします。

○委員

津野町には、集落活動センター「しらいし」の立ち上げの時から関わっていたので、イベントのたびに行きますが、一年前非常にうれしかったことは、本を置くスペースができていたことです。あったかふれあいセンターと、イベントや取組を一緒に行っているところなので、かなり人が集まっている場所です。図書館ではなく集落活動センターの中にそうしたコーナーを置いておくことで、利用者は本を手に入れていると思います。集落活動センター自体、人が集まる場所なので、このようなコーナーができていたというのは、ひとつの方法としていい取組だと思います。

今回、資料を見ていてすごいと思ったのは、いの町です。2トントラックで地域を回ってらっしゃることは是非詳しくお伺いしたい。この取組は、どこでもできることではなく、専任職員がいらっしゃるのとことでしたが、高知県の中山間地域をフォローする非常に有効な手立てではないかと思いました。

それから、ある大学がサテライトを整備したとき、図書室のスペースが設けられています。しかし、その図書室に十分な本を入れるだけの予算がなかったそうです。そこで、近隣の方々に呼びかけると、自分たちが好きな本等を持ってこられて、図書館がいっぱいになったという話をお聞きしました。おそらく持ってこられた本の整理は大変だったと思うのですが、「お金がないから本が置けない」ということではないことが、ひとつのムーブメントになったらいいなと思っています。

前回も言いました宿毛市の離島の図書室についても、いつの図書だろうみたいな本がいっぱいありましたが、そこに買うお金がないなら県民のみなさんから本を持ってきてもらって、設置するようなことができたら、本がいっぱいになるだけでなく、自分のものが置いてあることで県民の意識としたら親近感がわいてくると思います。まだ、思いつきの段階で専門家の方から言うと大変なことを言っている

かもしれませんが、そういうことができいくといろいろな意味でいいのかなと思っていました。

○委員長

今の話について、事務局はご存じですか。そのような、全国において本を集めているという動きはあるのでしょうか。

○事務局

有名なところでは、福島県の矢祭町です。かなり前からですが「もったいない図書館」というのをやっていて、全国から寄贈の本を集め、武道場を改装して図書館をつくりました。

オーテピアでも寄贈の申し出はいろいろとありますが、オーテピアの書架に入らないのでかなりお断りしているケースもあります。ただ、今もらっているものでいうと所蔵がない高知関係の資料や、中高生でも読めそうな新品の英語の本は定期的に3～5冊程度寄贈されるので整理が非常にしやすく特別にいただいています。

新刊の寄贈は、例えばここ7年以内の本というように区切って、必要のない本はくださいということではできないのではないのでしょうか。そうしなければ、実際、お家をたたまなければならぬ時やご主人が亡くなった時に寄贈されることが多く、いただいても整理しきれないということがあるので、数冊ずつ、最近読んだ本をご寄贈いただけませんかと協力していただければ、結構いいものがあるのではないかと思います。おそらく、その大学はこちらに近いのではないかと、先ほどの話を聞いて思いました。

○委員長

非常によくわかるお話で、ある面蔵書は個人のもので、一代限りのものだという考え方もありますが、せつかく自分が読んで本当にいいと思った本だけ残して、そのまま散逸するのかと考えると、どこか引き取ってくれないかなという気持ちが出てきます。大学でそのような受け入れをしていることは多いようです。それこそ、よりはっきりと「最近出た本はうちでは買えないから、こういう本をどなたかご寄贈いただけないか」というような形でリストをつくり、どこかに流すということも行ってみてもいいかもしれません。そういうことであれば、自分のところにたまたまあるからという形で集まる可能性もあるだろうと思います。

本というのは確かにお金を出して買うことが本筋かもしれませんが、いろいろ議論はあるのですが、いわゆる古書は、これだけ出回る世界ですので、考え方によっては、ある程度時間をかければ、要望のある書籍は集まる可能性があると思います。その辺は、これからまた考えていくことが必要かと思っています。お金をつぎ込めば買えるというものでもない訳ですから。では、委員よろしくお願ひします。

○委員

僕は図書館にいるという訳ではないので、タブーなのかわからないのですが、今回の資料を見させていただいて、現場の市町村図書館ではなかなか予算がつかないだとか、人が足りないと言う話を聞いて、そうしたときに、最終的にはその予算を決める人たちが図書館をどれくらい求めているかということになるのではかと思っています。予算を決める方々というのは役場や議会にいて、基本的にお金があり、必要なら自分で本を買う。図書館を自分や自分の子どもが利用することがなければ、どうしても優

先度が下がるのではないかとということがどうしても気になっています。

つまり、本を買うお金がない方が図書館に来ることが現実的にあるのであれば、それを一度認めなければならないのかなど。もしそうだとしたら、そういう方が来やすい方向にブランディングや、環境や本をセレクトをする必要がある。

そうではないというのであれば、逆にお金がある方がむしろ来たくするような図書館を作らなければならない。例えば、オーテピアであれば、どちらかというところオーテピアに来たいから、あの環境で本が読みたいから、という理由で来ている訳で、その辺りに触れると危険な気がするが、触れないと作戦を立てられないということが気になりました。

ともすると、読みにきてくださる方がお客様のような考え方もありますが、行政サービスとして住民がしてほしいことをまとめ、税金をとって代わりに行政がしていると考えます。お客様ではなく、むしろ代理して、住民がほしい機能を実行するというところに、一回戻ってもいいかなと思いました。そうすると、水平展開というよりも、それぞれの図書館のことを考えて、垂直展開も見直してもいいのかなどと思いました。

なかなか全ての人件費の補償はできないと思うので、100万円程度のレベルの予算をコンペティションするというか。それぞれの図書館で「もしそれがもらえたらこんなふうにするんだ」というものを提案し合うような、少しでもモチベーションを上げるようなことはできないかなど。全ての図書館に一度には難しいと思いますし、それを市町村がいきなり実行することは大変なので、県単で出せる予算を組み、素晴らしいアイデアを出したところに使っていただき、実績をつくる。実績さえ出れば、各市町村でもじゃあそれぐらいなら出そうかなと思える可能性はある。そうした競争やコンペみたいなことをやってもいいのではないのでしょうか。

○委員長

お金はかかりますがコンペというご提案について、事務局からコメントがございましたら。

○事務局

それもひとつありなのかもしれない。やはり、やる気のあるところに私たちも予算を配分したいと思っておりますので、そういうプランや目的を持って、こういうことをやりたいんだというところに対しては、汗をかきたいと思えます。

○委員長

前回、委員がおっしゃった「ブランド化」ですよね。そうした面から資料を見て、何かコメントでもいただけたらと思います。うまくブランド化ができそうなところもあるし、これはちょっというところもあるような気がしますが、いかがでしょう。

○委員

資料3を見たときに、ちょうど開館や計画のラッシュになっていて、もちろん全部の市町村ではないですが、いろいろと区切りをつけて切り替えるチャンスがいっぱいあるんだなと思いました。同時にやりたいけど人が足りていないとか、先ほどのお話にもあったように、そもそも予算をとることに時間

を割けていないということになると、行政の中で予算をとれないということになると思う。「ほんとはやりたいけど、わかっているけどできないんです」というようなメッセージをなんとなくこの資料から受け取り、ブランディング等に関するもおそらく「やりたいけどできていない。できないんです」という気持ちもあるんだなと思いました。なので、そこをどうにかするために、県の支援としてニーズの掘り起こしや地域交流等いろいろなアイデアを考えていただいていますので、それを実行することを是非やってもらいたい。それがやってみたいけどできていないということだったら、支援するという意味でも何か県でコンペなどできたらなという考え方です。なので、ブランディングとしては実際にどんどんやるべきですし、それぞれの見せ方をカッコよくしていくという意味だけではなく、方向性や方針のもとで実行していくことも十分ブランディングの中に入ってくると思うので、そこに支援してあげたらより、やりたいけどできないということができるようになると思いました。

○委員長

委員にお伺いしますが、図書館を中心とした複合施設で、ブランド化といいますか他とは違うところを出せるとは思います。やはり、そういうものを目指した方が今後の行政の展開に有利になろうとは思いますが、そのようにお考えですか。

○委員

そうですね。それぞれの取り組みが、奇抜なところに寄りすぎなくても「うちの市町村はこうだから、こういう方向に特に尖らせていきます」というところは必ずあってほしいなと思います。

○委員長

そうですね。わかりましたありがとうございます。委員お願いいたします。

○委員

私はもともと小学校の教員で、オーピアの前進の追手前小学校で12年ほど図書館担当教員をしておりました。全国的にも珍しい図書館の仕事だけをするという、非常に恵まれた中でいろいろ勉強させていただき、そのような中から、高知こどもの図書館の仕事をするようになりました。

その中で、一番最初に私がしたことは、読書ボランティア講座の会場を決めることでした。突撃で、あちこちに電話をかけまして「やっていただけますか。どうでしょうか。」ということをお聞きいたしまして、最終的にお答えいただき会場を貸していただきました。皆さん、好意的に対応していただきましたが、電話のお話の中でお断りされたことがありました。お断りされたことが、うちにはそういう余裕がありませんと本当に端的におっしゃっていただいて、そのお返事に対して私は申し上げることができなく引き下がったわけですが、今日この資料2を見て大変納得がいきました。

それから、こどもの図書館では地域の図書館の司書の方、児童書担当の方が集まる機会が何回かありまして、「児童図書館研究会」という集まりの会場として図書館をお貸ししていることがあります。それは、月1回月曜日に開催しているもので、自分の勉強として10名ほど集まっています。非常に熱心な方々で、その人がいる図書館は問題意識を持っていることがよくわかり、やはり図書館は人だということが実感していました。自分は仕事もあり研究会には参加したことがないのですが、非常に熱く図書

館のことについて、自己研鑽に取り組んでいる方がたくさんいることに心強く思いました。

今年からのこどもの図書館での行事において、元高知市の職員だった方がストーリーテリングの勉強をされてまして、東京子ども図書館で長い間勉強され「おばあさんのいす」という全国のお話会にも呼ばれた非常にお話が上手な方がいらっしゃいます。その方をお招きして、2ヶ月に1回ただ聞いてもらうだけでいいですからどうぞ集まってきてくださいという呼びかけをしているのですが、その参加者の半分は地域の図書館の司書をされている方です。その方はおそらく自分の時間をやりくりして参加してるんだなということはすごく嬉しく思います。

また、学校図書館も地域の中で活用していただけたらいいなと思います。昔、追手前小学校の時、地域にも使ってもらいましょうと呼びかけたのですが、誰も来なかったという残念なことがありました。加えて、学校図書館の整備がきちんとできているのか気になることもあります。学校図書館もいろいろと整備計画があり、文科省が力を入れているのですが、地方交付税から資料費を獲得するという経過がありますので、市町村によって充実度が違います。古い本というのはなかなか子どもは手に取らないですし、いくら名作といっても古いものを今の人を読むかなということもありますので、地域に広げると同時に、学校図書館は子ども達を読みたくなるような環境づくりとして、公共図書館と両輪で行っていく必要があるかなと思います。

○委員長

学校図書館は本も大事ですが、子ども達が読書する場の提供という機能もあると思うのです。家庭でゆっくり本を読む環境にある子どもばかりとはいえないと思います。そうすると、読むべきものと読むべき場所の提供の関わりが問題になってきます。「読書の場の保障」に関して何かコメントがあれば。

○委員

学校図書館で子ども達が来るようにするためには、そこに関わる人の課題が大きく、本だけあっても子どもが来るということはほぼないので、子どもに関わり、サポートをしてくれる人が必要だと思います。現に学校図書館は、人がいない時には鍵を閉めるところも結構ありますので、その問題も大きいかなと思います。

○委員長

学校図書館で実態などの情報があれば、コメントいただければと思います。

○事務局

学校図書館については、県立学校の図書館に行かせてもらいました。県立学校の図書館は充実しておりまして、高校では新刊や一般向けの本も入っており、図書館の職員もしっかり配置されていました。公民館図書室よりもっと充実したサービスがされているだろうなという印象は受けました。やはり、司書の方がいると違うと感じたところでございます。

○委員長

新聞を読んでいると高知市では今年からプールを開放しないとありましたが、学校の図書室は夏休み

中はどうなっているのでしょうか。

○事務局

以前に勤めていた学校を例に挙げますと、夏休み中も町で雇っている職員がいて、その方が決まった時間に開けていたところがございます。

○委員長

大体どこも、小中学校で夏休みに読書の課題がありますが、本の読める環境を保障するというのも読書活動の一環であると思いますので、そういった面からも閉めることが行われな方がいいなと思います。では、委員からお願いいたします。現在の取組から経緯等よろしくお願いいたします。

○委員

いの町におきましては、資料にもございますが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、「本との出会い推進員」を配置いたしまして、妊娠期から中学生まで本を通じた教養力などの育成を目指して本との出会いを提供していくために、心を育てる人材育成を行っているところでございます。妊産婦や乳幼児を対象とした絵本を推薦することとしております。保健師や保育士と連携を図った上で子育て支援センターでの就園前の乳幼児を対象にした保護者の方への読み聞かせなども行っております。同時に栄養士や保健師との共催で食育の事業を年に2回程度開催しており、本のことについていろいろと説明をしているところでございます。また、4ヶ月時にブックスタート事業がございまして、その時健診をしているところに出向いて乳幼児向け絵本を保護者の方に紹介したり、2冊プレゼントすることも行っています。1歳や6歳時等の健診の時にも読み聞かせ等を行っているところでございます。あと、園児や児童・生徒についてもお話の語り手を園や学校に派遣しまして、豊かな感性も持つことの指導をしているところでございます。

小中学校につきましては学校図書館に対する支援。例えば、同じ本が何冊か必要となった場合、それを集めて学校に持っていくことも行っております。待つということだけではなくて出向く、出かけていく図書館として、いろいろな機会に積極的に出向いていくことに力を入れているところであります。今後いろいろな機会・機関と連携して図書館の可能性を探っていきたいと思っています。

そしてもう一点、移動図書館バスですが、ニーズのある品揃えということも大事だと思います。運転手ではありますが、バスに専任の職員が地域を巡回していく中でニーズを把握して、それにあった本を選び、積み替えをして、巡回をしているところでございます。これは曜日を変えて3地区で行っているところでございます。郵便局や道の駅、集会所、コミュニティーセンター、駐在所等の所に行っております。そういった中で、職員が新たな貸し出し場所の開拓にも勤めているというところでございます。昨年度の貸出数は1万4432冊というところで、今後とも、この取り組みを順次推進していきたいと考えております。取組の報告のような形となってしまいましたが以上でございます。

○委員長

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における基本戦略があって、その中で図書館の事業が続けられているだろうと思いますが、どのように成立したかご存知でしたら教えていただきたいのですが。

○委員

いの町は「菊池学園」という取組がございまして、「ぷっくりハート」、自尊心を高める教育にも力を入れています。そういった中で、子どもの時から相手を認め自分も認めるといった形での教育を目指しているところございまして、そういった方針にも合致する妊娠期からの子育て支援の取組も重点的に行っていく中で図書の本も組み入れ、教育委員会、図書館から声をあげていただき、総合戦略の中に取り組んでいます。

○委員長

いわゆる総合戦略の中に図書館が位置付けられているというところですが、どこの市町村も持っているのでしょうか。

○事務局

どの市町村も総合戦略はお持ちですが、申し訳ないのですがその詳細を把握してはいないです。

図書館が総合戦略に入っているというところはそれほどないかもしれませんし、ハードとしてのハコの整備が入っているところはあるかもしれません。

○委員長

「図書館」という言葉が建物を連想させますが、実際に我々が考えるべきことは「図書館活動」という運動だろうと思います。例えば教育にどういう効果が出るかなどの活動の面から見れば、具体的なものを述べた計画も大事ですが、いの町のように全体を包み込むようなトータルな方向性が把握できたら、図書館を組み込んだ活動を考えることができるのではないのでしょうか。その時に具体的な「図書館」という建物を想像するよりも、図書館ができること、図書館を利用した活動というものを全体的な計画に組み入れられると「こんな効果が期待できるのではないですか」という具体的な提案ができ、市町村の活動も変わるのではないかと思います。もしコメントがあれば、全体から見た図書館の見通しのようなことはありませんか。

○事務局

先日、県のトップセミナーというものがございまして、まち・ひと・しごと総合戦略が今年で終わりますので、次年度以降の戦略を国の方でどうするか検討しているということで、増田寛也先生が講師でお話をされておりましたが、その中で地方創生ということを中心に話されておりました。地方の人口の層やその中で東京の一極集中に比較的若い女性が流出しているだとか、人口の流れを示しながら、今後の方向性や新たな視点だとかのお話をお伺いしました。その中には、女性や子育て、多文化共生等のキーワードが散りばめられており、そういった中で子育てというところで地方は力を入れていて、移住者を呼び込むことが有効であるとお話もございましたので、やはり委員がおっしゃるように子育ての中に子どもの心を育てるための図書館というところも、PRの一つになるのかなと繋がったところあります。また、各市町村におきましても新たな総合戦略をこれから練らなければならないところと思いますので、何か図書館の重要性や意義というものをPRできればと考えます。

○委員

地方創生の取り組みで関わってる市町村があるので非常に興味があるのですが、新しい人の流れをつくるというとKPIをどのように設定し、考えられているのでしょうか。実際にこの施策が、出生率の向上や若い夫婦が移住してくるとかに役立っているのであれば、県内各市町村が行ったらすごいことになるのではないかと。そのあたりをもう少し立ち入って聞いてもよろしいでしょうか。

○委員

総合戦略の基本目標の中の基本的な方向という中で「妊娠、出産、子育て期に応じた切れ目のない支援の推進」というものをあげております。その中で、具体的な事業として「本との出会い推進事業」を位置付けて行っているところであります。また、具体的な数値は手元にないですが、そのような位置付けで実施をしています。

○委員長

苦労は多々あると思いますが、有効な活動の結果であり、いろいろと参考にできるかと思います。

○委員

皆様のご意見をお伺いして、図書館活動を県としてどのように目指していきかいか、そこから各市町村の意欲化の中に「質」や「モノ」が出てくると思います。そのためには、お金とかではなく、市町村にはそれぞれの施策があり、その自治体を活性化させる中に図書館がどのように関わられるかというところに持って行く。例えば津野町でしたら、そこまで大きな企業はないですが教育に力を入れることによって地域を活性化して、人を呼び込む。そして、その中から多様なものに取り組んで町を売り込むという戦略の中で、一つは集落活動センターといったところを中心に津野町にとって図書館が大きなものになる。

私は、物とか形がいいから自分の図書館が好きだとは思わないのです。私がどうして図書館が好きかという、それが幼児から高齢者まで全てのことに関わっているからです。というのは、町全体が活性化して、少子高齢化の中でみんなが協力して生き抜くためには豊かな心を育むことが必要で、委員がおっしゃった通り、幼少期からつくっていかなければならない。そういったことを町の図書館として、幼児教育はどのようにするのか、小中学校ではどのようにするのか、若者や高齢者にどう提案するのか明確に立てて、それがどれだけ進んでいるかを把握する。それが実感にもなり、図書館の担当者のやる気を促すことにもつながると思う。

学校や地域活性化の拠点に本を持っていき、入れ替えをすることでどういったメリットがあるのか。町の図書館活動として1ヶ月に一回、全ての学校と幼稚園に移動図書館が回っていることのメリットは何なのか。図書館の担当者が実感として、そしてイベント等の取り組みを地域に呼びかけていく中で、図書館活動の充実感に溢れていて、担当者も笑顔でいる。でも、笑顔でいるから良いわけではなく、図書館職員同士で活性化するにはもう一歩上の人が必要になる。

津野町は2つの図書館があるので同じようにサービスを行っているが、司書の免許を持っている3名とボランティアをしている方が十数名とで入れ替わりながら運営している。一方で、図書館協議会というグループが戦略を考えてるのですが、その中に自分の意見がなかなか通らなく歯痒い思いをしている

推進員もいます。ですので、アドバイザーというものを今年の2学期から雇いました。それぞれの意見を聞いて、そこから肯定的に評価しながら、前に進めるよう注文をしています。そのように、質を高めしていくためには、図書館の経営が町の戦略との結びつき、市町村部局とのつながりが必要で、生涯学習課としての戦略を持っていないといけないと思います。

図書館というものが人の心を育て、生きがいにもなり、町の活性化につながることは間違いないが、それがどうつながっているのかをまず各市町村が明確にしながら、それぞれの自治体で喜びを感じ、図書館活動を進めることが高知県の図書館教育の発展につながるのではないかと私自身は思います。やはり、県としてこの図書館活動とどう密接に関わり、地域を活性化させるか具体策を知らせる手立てが必要で、市町村の良いところを巡回で知らせていくといった広報活動を入れること。また、自治体にはそれぞれの良さがあり、図書館教育が小さいところでも今後やってみたいことはあると思うので、そこに対しての戦略を、この協議会で持ち込んでいくことがいいのではないかと思います。

○委員長

今の意見を受けて、生涯学習課としてのポリシーや考え方。それが結局、県全体の施策の方針との関わりがどうなっていくかという面があると思いますが、そのあたりも含めてご説明していただければ。

○事務局

県ではオーテピア高知図書館を開館いたしましたので、そのオーテピアの持っているサービスを市町村の教育員会や図書館に活用していただいて、それぞれの図書館がどういったものをつくりたいのかというところをご支援させていただければと考えております。方向性の案のところにも書かせていただきましたが、それぞれの市町村におけるビジョンづくりだとか、市町村図書館の振興計画といいたししょうか、どんな図書館をつくり、どのように展開していくかというところの戦略をつくるご支援を県としてさせていただければと考えております。県がいろいろな計画をつくるときにひな形のようなものをお示ししますが、それぞれの市町村の戦略に合わせてアレンジしてもらえればと考えていますので、新たな図書館を整備するときだとか、整備はしないがもう一段何かサービスを考えられているときには県立図書館といっしょになって整備や支援をさせていただければと思っております。

○事務局

各市町村によって図書館のない図書室のところもあれば、いろいろな地域の事情があると思うのですが、資料3にあります。現実にはこういった形で新たに整備するところがありますので、特にこれから移転するところについては、支援や協力は当然してはいるのですが、そこが実施しようとしていることに対して何らかの有効的、効果的なことができる、一つの成功例のようなものがあります。それを増やしていきながら、他のところでも「あそこはうまくいっている」という流れを広げていけたらなと思っています。当然、各市町村の財政状況も違うのでいろいろな問題もあるのですが、今の施設が古くなって移転・整備をざるを得ないようなきっかけの時に、効果的な支援ができた成功例を増やし、周りもそれを見て自分のところでもやってみたいと思わせるように、全体を引き上げていければいいなと思っています。

○委員長

ありがとうございます。その他、時間もございますので何かコメントございましたらお受けいたしますが。

○委員

先ほど委員から問い合わせがあった KPI の件です。どんなものを指標としているかということでしたが、4ヶ月健診のアンケートの中でブックスタートの絵本の活用率等を指標として、目標を90%以上としています。実績で言うと29年度は93.5%で目標は達成されています。他のアンケートで「親子のふれあいに役に立つか」というところでは、概ね100%となっております。

○委員長

私の方からのコメントとして、生涯学習課の全体の方向性について、例えば資料1のように全国平均に比べて良い位置にいるものをもっと引き上げる形。つまり、資料3にあるような新しい施設ができたり、新しい活動ができているところを、まず伸ばしていくこともひとつの手だと思いますが、そうすると図書館活動について地域格差が広がってしまう面があります。そこの兼ね合いが大事で、先ほど意見として出たコンペティションをやるにしても、プランが立てられるだけのバックグラウンドがあるところが有利になります。そうすると、計画の進行や活動が活発なところほど手が届きやすい。また、そのお金を使ってもっと活発になる。そうすると、手をあげたいけど参加するプランさえ組めないところがあるとしたら、ますますその差は開いてしまう。

モデルがいることには間違いはないのですが、そのモデルにあまりにも集中してしまうと距離が開いてしまう可能性があり、そのところの見通しや兼ね合いをどうお考えかお聞かせ願えればと思います。

○事務局

まず、図書館振興計画では全国平均の2分の1を目標にしております。ただ、図書館のない市町村や今計画をしている市町村では、なかなか施策の優先度が上がらないところがございます。ここは多分無理だろうなと思ったところもありました。そこを我々としては何とか、全国平均の4分の1以上にはしたいとは思いますが、そこは市町村のご事情がございますので難しい実情があり、委員の皆様にご意見をいただきたいところであります。

○委員

今でさえ司書が1日中図書館を空けない、月に数回しか出れないという状態にありますが、現状を打破するためには、より良い図書館活動を知らせる担当者の会をやっていただきたい。いくらお金があっても意識が高揚しないとダメで、その仕事に従事している方が、主体的に取り組まなければならないことを考える機会や、図書館の活動を直に担当者から聞いたり、見ることができる会があれば助かるのではないのかと考えております。

○委員

図書館と社会教育委員を務めさせていただいており、土佐町、いの町で集落活動支援センターが始ま

るまでの住民の意見やデータをまとめることをさせていただき、地域、図書館、公民館といったところと関わることが多いのですが、その中で「それぞれ範囲を広げ、住民のニーズを把握し、施設の重要性を伝えないと、これから生き残れない」ということを同じような場で言っている気がします。

集落活動センターで中山間地域対策や高齢者の福祉のことになるとお金が出やすい中ではありますが、公民館も予算が付かなくて困っています。その中で「必要だけど予算が付かない」「やる人は高齢化しているし、若者がこない」等図書館と同じような話をしています。そのため、公民館に大きな予算が入っているところは分けて考えていいのですが、小さいところでは公民館と図書館のことを一緒に考えるようにすると、図書館で知識を得たり、感性を育むときに公民館や青年団とつながっていくと思います。そういったところと一緒に、中山間地域対策等として総合戦略に組み込み、予算が付きやすくする等の戦略や組み立て方がいろいろとできるのではないかと思います。

○委員長

町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」。もし、こういうものにマスタープラン的なものがあれば、そこにいろいろなものを統合することができますよね。

○委員

生涯学習課は幸い公民館と図書館を両方扱うので、そうした枠が外せると、市町村における総合戦略にそれら施設の運営に関する話を入れ込むことができ、予算が付きやすくなるのではないかと思います。

○委員長

何か新しいことをする、その時々組織をつくりかえるというのは極めて不経済で難しいのかもしれませんが、図書館活動自体は協力がしやすく、活動の主体の構成は様々だが、一種のバーチャルの機関をつくるアイデアになるかもしれない。そうした方向性でないと、これだけ世の中が変化している中で対応できないだろうと思います。そういう面でいつも総合的な見通しはどうですかとお伺いしている訳ですが、図書館だけの問題だけじゃないことは誰が見てもわかることで、一つの大きなマスタがある訳ですから、そういうものをつくるための努力が必要で、そのヒントを県の方から与えられたら良いのではないかと思います。

先ほどの事務局の話もわかりますが「もうこれ以上言っても無駄じゃないか」といったことを言うてはお終いだと思うところです。特に教員をやっていると、学生を見ていて力はあるのに「もういいや」と思ってしまう子が多いので、そこは時間をかけて説得します。図書館活動のご理解を願うというのは、図書館活動や図書館の在り方が本当の意味で理解されているかという意味です。向こうがそんなものいらないと言っても「そうじゃないんだ」と諦めずに、いろいろ語り口を変えて「こんなところからアプローチできますよ」だとか、「もっと広くとらえたらいいじゃないですか」とか粘り強く説得していただくしかないだろうと思います。結局、何かお願いする場合は、どうしても説得、合意形成にどれくらいの時間がかけられるだろうかということだと思います。もうちょっと頑張って説得を続けていただきたいと感じてはいます。

○事務局

「説得」についてどなたにするかというところで、先ほど、委員等からのお考えを聞きましたが、資料4、方向性の案の一番右上に記載しているところです。図書館や公民館も、魅力や可能性をどこまで気づいていただいているのだろうかということが、市町村等をまわっての感想でありまして、先ほど委員長がおっしゃられた良いところを伸ばすのと同時に、底上げをどうするのか。

その底上げというところでは、図書館、公民館ともに教育委員会が所管しているので、教育委員会の方々にいろいろな優良な事例をご紹介します。一方で、総合戦略を所管しているところ、地域振興を所管しているところのできればかなり上の方々がお集まりしていただいている場を狙い「図書館が地域活性化につながる」ということ。もしくは「子育て支援に非常に役立つ」というところを説得をできればという思いがあります。具体的にどの場で、どのように、というところはこれからのところにはなりますが、方向性として記載させていただいており、そこがスタートになると思っているところでございます。

○委員長

非常に良くわかります。実際、各自治体の皆さんどこもそれなりの問題をお抱えだろうと思う。図書館活動に関する問題、悩みがあるときに、例えばオーテピアや県の生涯学習課には話ができるネットワークがあったとしても、「横のネットワーク」、そのためのものがないとは思いますが。実際、話し合うと似たような話を聞くこともあります。そのためだけの会をもつことは難しいでしょうから、今言ったように市町村の首長がお集まりになる時に、議題にまではしなくてもいいと思いますが、報告事項として話しができる、横の連絡が取れるシステムがあればなど感想として思ったと思います。その辺、いかがでしょう。

○事務局

実はこの方向性案を考えるに当たって、県の総合戦略を所管している課に相談をして、その場でやりたいんだと申し出たのですが。「そういう場だと、地方創生の主語が図書館だと受け取れかねないから、一つの例として図書館もあるというぐらいにしないといけない。」と言われました。しかし、そこで諦めるのではなく、どういう方法ができるのか、この方向性で今日ご意見いただいた上でさらに詰めていきたいと思っています。

○委員

まずは、首長だと思います。その意識が高まらないと。いくら下で、もがいてもなかなかうまくいかないことが、その首長の考え方で各市町村の取組も変わってくると思います。その首長が、図書館活動が大事だと感じていただけるということはすごく大事な戦力になるのではないのでしょうか。先ほどおっしゃられたように「こういう方法もあります」ということで紹介していただけたら。

また、首長のスケジュール表を見ると必ず市町村長会等が入っているので、そのような会の中で、少しでもかまわない時間をもらいPRをしていくことも一つの方法ではないのでしょうか。

○事務局

一つは教育委員会の首長部局の方にご理解をいただける取組があると思います。それと合わせまして、前回委員からも話がありました、ニーズの掘り起こしもひとつ大事ではないかというところで「図書館がこんなことができるんだよ」というところをまるごと持って行って体験していただくということについてご提案がありましたので、それについてはオーテピア高知図書館のサービス計画の企画ですとか、ニーズを掘り起こすような出張図書館というものができますので、そういったことで、そこにいる方の本当はあるだろうニーズを顕在化させる必要があるかと思っております。

○委員長

具体例として委員がおっしゃった、いの町の巡回図書館で運転手の方が新しい停まる場所をお聞きして実行されているということ。ニーズの掘り起こしなどの、そういう地道なことだと思います。

ある面、善意のお節介のような形がいるのではないかと。それこそ、図書館バスで行き「ほら、こんなに本がありますよ。こんな活動やっていますよ。いかかですか」といって、実例を見せてあげるべきだと。それを通して、具体的な検討をお示しするしかない思っています。ですから、手応えを与えられるような活動が必要なように思います。

もう一つだけ思ったことが、市町村の特性として人口動態・構成の変遷や予測を長期の展望で考えざるを得ないと思います。その辺りの情報をかなり把握しておく必要があるだろうと思います。現状だと高知市とその他という形で分かれています。今後、その傾向を県の施策としてどうしていくのか。移住者の獲得ということもあるでしょうけど、そういうところも取り入れた資料を持って「そういう人口動態があるから 図書館活動をこうしたらいい。これは絶対に入りますよ」と。確実に高齢者は増えますから、そういったアイデアをいくつか考えておくことも必要ではないかなと思った次第です。非常に大変な事ばかりですが、お手本でオーテピアが成功しているということはやはり、図書館活動をきちんと実行すれば支持を必ず得られる証になるだろうと思います。そういう形で、ぜひ粘り強い説得をしていただけたらと思います。

○事務局

本日は様々なご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。私自身も非常に市町村を回ってなかなか困難だなというところでいろいろ感じているところではございましたけど、皆様から建設的なご意見を頂戴いたしました。また、資料4に方向性を書いてありますが、その方向性で今回ご了解いただけたと理解しております。これに沿って、次回の振興策の策定につきまして県立図書館と一っしょに検討を進めていく予定でございます。

次回の協議会では、具体的な案がお示しをできるよう進めて参ります。そして、皆様方から再びご助言をいただきまして、より良い施策を練り上げていきたいと思っておりますので、どうか今後ともご支援、ご協力の程よろしく願いいたします。本日はありがとうございます。